

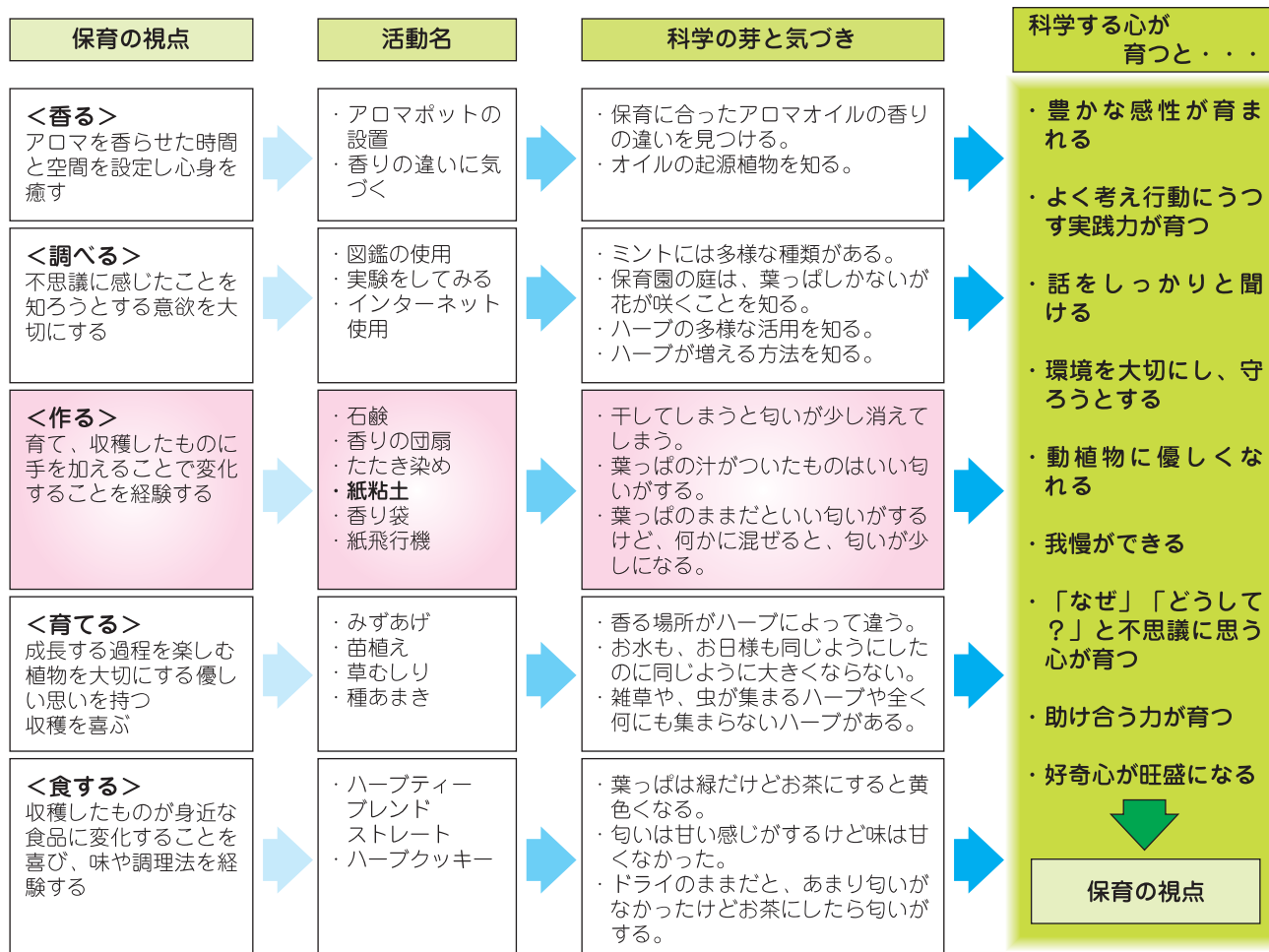
B. 考える、思いやる

B-1. どうして茶色くなったの？（ハーブを使った製作活動）
品川区立中延保育園（東京都品川区）

[5歳児]

環境設定に用いるアロマオイルの起源植物を知り、環境教育の一つとして自然への興味が深まるように「ハーブの育成」を行う。

<「アロマテラピー」「ハーブの育成」を取り入れた保育の展開図>



【事例】～調べる・作る～

『香りを探る』・『紙粘土制作』（6月中旬）『ハーブをどんな風につかおうかな？』

昨年種を蒔いて、大切に育てているレモンバームやペパーミントがたくさん育ち、子どもたちからも「大きくなったね」と声が響き渡っていた。そこで、レモンバームはどのように使用するとどんな効果があるのかななどをみんなで話し合う。「ハーブで紙飛行機は」「じゃあ粘土にハーブをはさんでみようよ」「パズルにハーブをいれて匂いをさせるのは？」子どもたちの発想は様々である。

<ね ら い> 育てたハーブの使い道を考えどのようなものができるかを体験する。

紙粘土に混ぜた時にドライハーブと生のハーブとの香りや感触の違いを見つけ、考える。

<科学する心> 紙粘土に混ぜた時にドライハーブと生のハーブとの違いを見つける。変化があった時は「なぜ」変化し、同じではないのかを考える。（試す・調べる）

- A 児「先生、乾いているのだと匂いしないよ」
「ちょっとはするけど・・・」
B 児「粘土に入れたら匂いするかな？」
保育者「じゃあ、今探ってきたのは？」
C 児「わぁ～、いいにおい！！」
D 児「レモンの匂いするね」
E 児「こっちがいいな～」



途中で何回も香りを嗅ぎながら香りがするかと確認していた。



器作り

①ハーブの使い方が決まってきた子どもから、紙粘土に混ぜて形を作る。

ドライのハーブを飾ろうとしたが、くっつけることができず悪戦苦闘中！！



N児「くっつかないな？」
「どうしようかな？」
「小さくして、入れてみよう〜っと！」

R児「匂いまだするかな？」

②混ぜるのだけでは、物足りないと感じた子は飾りにもする。

「葉っぱがくっつかない」と思った子どもは、残りの枝を挿して、より香りが増すのではないかと考えている。



完成

③子どもたちが、様々な悪戦苦闘をしながら、作り上げた作品はどれも個性が見られ乾くことをとても楽しみにしていた。しかし、乾いてくると茶色く変色してきた物があり「茶色くなっちゃった！」と変化に戸惑いが見られる。「どうして？」「どうする？」と子どもたちはお互いに考え不思議を膨らませている。そこで、クラスみんなで考えてみることにした。

④疑問・調べる・確かめる



数日後



紙粘土に入れた時と同じ状況のハーブを用意し、手でつぶしてみたりちぎってみたり、「どうして茶色くなったのかな？」と色々なことをみんな考えて試してみた。でも手の平でどんなにつぶしても、変色しない…いい香りがしてくるだけ…「どうしよう」と、不安そうな表情を浮かべる子どもたち。保育者も一緒になって考え提案し、試す。

まず初めにドライにしたハーブをペーパーに包み揉んでみた。グループのみんなで、何回か交代で揉んでみた。どんな風になるのかドキドキしていた。

<ドライにしたハーブ>

「カサカサする」
「もう見ても大丈夫かな？」
「見てみるよ！」
「あっ！何にもなってない」
「なんでかな？」



ドライを使えば、茶色にならないんだ！

<摘んだハーブ>

「うん！ぬれてきた・・・」
「みて！先生！茶色になってるよ！」
「粘土とおんなじだ〜っ！」
「わかった！ハーブの葉っぱに汁があるんだ」
「それをぎゅっとすると出てくるんだ」
「だからか、紙も粘土もお茶があって、葉っぱの汁を入れると茶色になっちゃうんだよ」



考察

ハーブを使うと心地よいという体験から、紙粘土での器作りに使うことを思いつくことができた。そして、実際に製作することで変色するという事に気付いて、友達と「なぜだろう？」と考えたり試したりする意欲が引き出された。また、ハーブを使うことで、ドライと生の違いを見つけ、「ドライなら変色しないきれいにできる」という結論を見出せた。

ポイント

「自分たちで育てたハーブを使う」というハーブへの思いやそれまでに飲んだり匂ったりする経験を重ねたことが活動への意欲となり、「どのようにハーブを使うとどのような効果があるのか」という話し合いの展開や、作っていた器の色の変色に気付き考えたり試したりする姿につながっています。「どうして？」という不思議さを感じ、生のハーブと乾いたハーブの違いを考えて探求することで、作品をよりよく仕上げようという思いで製作し創造力が育まれ、「科学する心」の育ちになりました。